

イギリスのGCSE試験におけるコースワーク評価の研究： 導入から現在までの内容と方法の変化に関して

飯田，直弘
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：博士課程1年

<https://doi.org/10.15017/7374747>

出版情報：国際教育文化研究. 6, pp.113-124, 2006-06-30. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



イギリスの GCSE 試験におけるコースワーク評価の研究

—導入から現在までの内容と方法の変化に関して—

飯田 直弘

1. はじめに

本研究は、1986 年に導入されたイギリス¹の GCSE 試験におけるコースワーク評価に関して、導入から現在に至るまでに内容と方法の変化について明らかにすることを目的とする。

イギリスでは、1986 年に 16 歳時の試験として GCSE 試験が新たに導入された²。この試験において、学年末に実施される筆記試験とともに最終的な成績の判断材料となるものとして、コースワーク評価が採り入れられた。コースワーク評価とは、生徒が通常の授業時間中に行った体験的活動、実験、問題解決学習、調査研究などを評価し、これを筆記試験の点数と合わせて生徒の最終的な試験の成績にする評価方法である。

以上に述べたコースワーク評価は、筆記試験では測定し難い能力を測定する評価方法とされており、また、コースワーク評価が重視された背景には、国際競争を勝ち抜くための人材育成の観点から実際的な能力や問題解決能力などが重視されていたことが挙げられる。すなわち、アカデミック科目において、イギリスでは伝統的に知識・理解の習得が重視され、学校内部の教師による実際的な能力の評価よりも外部機関による筆記試験が中心に行われてきたが、すべての 16 歳生徒が受験する GCSE 試験において、筆記試験では評価することが困難である能力・技能についても、人的資本の観点から育成することが目指されたのである。このような背景から、GCSE 試験導入から 20 年近く経過した今、導入から現在までのコースワーク評価の内容や方法における変化をみることにより、1980 年代後半に大きく転換したといえるイギリスにおける人材育成の観点が、それ以降どのように変化したのかについて示唆を得ることができる。

導入以前・以後において、制度的側面、評価論的側面、学校における実践の側面などから論文・著書が発表された。例えば、Buchan (1993)³は、理科の授業におけるコースワーク評価について明らかにしている。また、Taylor と Wallace (1990)⁴は、継続的評価の観点から、英語科の実践における教師のジレンマについて明らかにしている。日本における先行研究としては、主要科目におけるコースワーク評価の評価目標や配点の基準などについて述べた鈴木 (1996)⁵の論文がある。

以上の先行研究において、学校における実践面での問題点や評価目標等が明らかにされているが、コースワーク評価における内容や方法の変化については明らかにされていない。

本研究では、以上の点を明らかにする方法として、①ナショナル・カリキュラムの分析、②試験の全国基準の分析、③外部試験団体（Edexcel）のシラバスの分析を行う。①について、1988年教育改革法によって導入された当初のナショナル・カリキュラムから最新のカリキュラム 2000 まで、主要科目における「能力観」⁶の変化について分析する。②について、試験の全国基準には、試験の実施に際して外部試験団体が遵守すべき事項が記載されており、これに基づき各試験団体はシラバスを作成する。全国基準の分析により、試験の実施（評価）に関する基準やその変化について明らかにする。③について、シラバスの分析により、コースワーク評価の評価目標や評価基準の変化を分析する。以上の 3 つの方法により、細々としたシラバスの改訂動向をみるのではなく、全体として、コースワーク評価やそれが評価対象とする能力・技能がどのように取り扱われているのかを明らかにする。

また、対象とする科目は英語と科学とする。数ある科目のなかから英語と科学を選んだ理由は、コミュニケーション能力や実際的能力といったコースワーク評価が評価対象とする能力・技能がこれらの科目において相対的に重視されるからである。そのため、他の科目よりもコースワーク評価の内容や方法における変化が顕著に現れると考えられる。

2. 必要とされる能力の変化—ナショナル・カリキュラムの分析

ナショナル・カリキュラムは 1990 年に最初のものが発行された後、2 度にわたって改訂されている。2 度の改訂による変化のポイントをみていくことにより、コミュニケーション能力や実際的能力がカリキュラムにおいてどのように変化してきたのかを明らかにすることができる。

2-1 コミュニケーション能力や調査遂行能力の重視—1990 年のカリキュラム

英語の学習プログラム⁷は、①スピーキングとリスニング、②リーディング、③ライティング、スペリング、ハンドライティングの 3 領域に分けられ、それぞれ生徒が獲得すべき能力・技能や学習活動の範囲について述べられている。特に、スピーキングとリスニングに関しては、討議や他者との会話（発話・受け答え）における能力・技能や、問題解決学習に関する記述がある。

次に、科学の学習プログラム⁸は、①導入、②科学の探究に関する詳細な規定、③科学の知識と理解に関する詳細な規定の 3 つに分かれている。導入においては、科学の応用やコミュニケーションなどが含まれ、それぞれ詳細に説明が述べられている。また、科学の探究に関する詳細な規定において、調査技能や科学の理解を発達させるための活動について述べられている。

2-2 細かい規定の簡素化—1995 年のナショナル・カリキュラム

英語の学習プログラム⁹における改訂のポイントを以下に挙げる。第 1 に、改訂前のカリ

キュラムが、キー・ステージ 3 と 4 の学習プログラムが述べられた後、全体的な規定や詳細な規定が述べられているのに対して、今回の改訂でそれらの付随する規定は削除された。また、項目についても、「範囲」、「キー・スキル」、「標準英語・言語の学習」に区分されることとなった。第 2 に、細かい項目については今回の改訂で簡素化されているが、スピーキングとリスニングのキー・スキルにおいて、討議形式の学習や他者とのコミュニケーションで必要な能力・技能についての記述が多くを占めている。第 3 に、ライティングにおいて、ライティングのプロセス（草稿から校正まで）が削除され、また、キー・スキルとして、物語、詩、脚本や対話形式の文書別に、必要な能力・技能について記述されている点が特徴的である。

次に、科学の学習プログラム¹⁰における改訂のポイントを以下に挙げる。第 1 に、以前のカリキュラムは、①導入、②科学の探究に関する詳細な規定、③科学の知識と理解に関する詳細な規定の 3 つに分かれていたが、今回の改訂では、①実験と調査に関する科学、②生命のプロセスと生物、③物質と特性、④物理的プロセスの領域に分かれており、最初に導入として、科学の応用やコミュニケーションなどに関する記述がある。第 2 に、コミュニケーションに関しては内容が簡素化されているが、「実験と調査に関する科学」において、実験手順の計画から明らかになったことに対する評価まで、学習プロセスについて詳しく示されることとなった。

2-3 コミュニケーション能力の取り扱いの変化—1999 年のナショナル・カリキュラム

英語の学習プログラム¹¹の改訂のポイントは、以下のとおりである。第 1 に、以前のカリキュラムにおいてキー・スキルとして示されていた能力・技能が、知識・技能・理解として示されており、その内容については、従来のキー・スキルに示されていたものよりも詳しく述べられている。第 2 に、スピーキングとリスニングにおいて、「集団討議と相互作用」、「劇」という項目が新たに設けられることとなった。集団討議と相互作用においては、異なる集団の成員として効果的に参加するために、生徒は、①発言を聞き手や活動に適合させ、集団に対して異なるタイプの貢献をすること、②異なる見解を考慮し、他者の発言に配慮して自らの見解を調整すること、③最も重要な点を吟味し、要約し、活用すること、④組織、計画、集団の維持において異なる役割を果たすこと、⑤適切に様々な形で貢献し、他者の考えを明らかにして統合し、それらを前に出し事を進めることによって結論に到達し、意見を一致させるために協議するかもしれない異なる意見に賛同することにより、集団が課題を完成させることを助けることを教授されなければならない、とされた。また、劇においては、劇に参加し、自分や他者の貢献を評価するために、生徒は、①概念、問題、主題、意味を探究するために劇における様々な技術を利用すること、②脚本を書いたり演技をしたりする際、動作、性格、雰囲気、緊張を伝えるために異なる方法をとること、③場面や脚本の構成・組織がどのように劇の効果に資するのかを正しく理解すること、④生徒が観た、もしくは参加したドラマのできを批判的に評価することを教授されなければな

らない、とされた。第 3 に、ライティングにおいて、従来のカリキュラムにおけるキー・スキルは、物語、詩、脚本や対話形式の文書を書く際に必要な能力・技能の発達という観点から記述されていたが、今回の改訂では、文書の様々な用途にあわせて必要な能力・技能という観点から構成されている。そのため、ライティングにおける知識・技能・理解には、「構成」として、①想像し、探究し、楽しませるためのライティング、②情報を伝達し、説明し、描写するためのライティング、③説得し、議論し、助言するためのライティング、④分析し、検討し、論評するためのライティング、の 4 つが挙げられている。

次に、科学の学習プログラム¹²の改訂のポイントは以下のとおりである。第 1 に、1995 年のカリキュラムにおいては、①実験と調査に関する科学、②生命のプロセスと生物、③物質と特性、④物理的プロセスの 4 領域に分かれていたが、今回の改訂では、①の実験と調査に関する科学が「科学的探究」という名称に変わり、その内容についても幾分簡略化されている。第 2 に、以前のカリキュラムでは 4 領域に関する記述の前に述べられていた、科学の応用やコミュニケーションなどに関する記述が削除されるかもしくは本文の脇に簡略化された形で示されることとなった。

2-4 小括

英語に関しては、2 度の改訂によって、スピーキングとリスニングにおいて、特に討議や劇による他者とのコミュニケーションや集団における役割に重点がおかれるようになってきていることがわかる。また、ライティングにおいて、1995 年のカリキュラムにおけるキー・スキルは、物語、詩、脚本や対話形式の文書を書く際に必要な能力・技能の発達という観点から記述されていたが、1999 年の改訂では、文書の様々な用途にあわせて必要な能力・技能という観点から構成されている点で、実際の生活に即した状況でのコミュニケーション能力に重点が置かれていることがわかる。

科学に関しては、「応用」や「コミュニケーション」に関する記述が改訂を追うごとに削減されていることがわかる。また、「実験と調査」に関する記述については、1995 年のカリキュラムにおいては詳細な学習プロセスが記載されていたが、1999 年の改訂において幾分簡略化されることとなった。

3. コースワーク評価の比重の変化—試験の全国的基準の分析

1985 年に出された『全国基準』は、GCSE 試験における最初の全国的な基準であり、各科目の基準を含む。シラバスはこの基準に基づいて各試験団体により作成される。以下に、『全国基準』（95 年に出されたものは『GCSE 試験規則』という名称になっている）における英語と科学に関して、特にコースワーク評価に関する記述のある「評価技術」（「評価計画と評価技術」）の内容とその変化をみていく。

3-1 コースワーク評価の重視—『全国基準』（1985）

◆英語

評価技術¹³

コースワーク評価による試験は、英語科において特に適切なものである。コースワーク評価は、筆記試験と比べて、生徒の幅広い学力を明らかにする。また、コースワークは、英語科において幅広い能力を評価するのに必要な柔軟性を与えるものである。すべてのシラバスにおいて、コースワークは少なくとも総得点の 20% を占めなければならない。リーディングにおける選択問題によるテストは、評価計画の 20% 以上を占めてはならない。

◆ 科学

評価技術¹⁴

実際的技能、実験を行う技能について、すべての評価計画はこれらの技能に、総得点の 20% 以上を配点しなければならない。

3-2 コースワーク評価の比重の軽減—『GCSE 試験規則』（1995）¹⁵

◆ 英語

評価計画と評価技術¹⁶

3つの評価目標の評価の比重は、①スピーキングとリスニング（20%）、②リーディング（40%）、③ライティング（40%）とする。評価計画において、最終試験の比重は最低でも 60% を占めなければならない。コースワークの比重は、どの評価計画においても 40% を超えてはならない。スピーキングとリスニングの評価に当ててよいコースワークの比重は 20% までとし、リーディングとライティングの評価に当ててよいコースワークの比重は 30% までとする。

◆ 科学

評価計画と評価技術¹⁷

①25%、②60%（約 3 分の 1 は記憶に当てる）、③と④15%（各目標に等しく配分する）。①については、コースワークによって評価する。最終試験の比重は最低でも 70% とする。コースワーク評価の比重は 30% を超えてはならない。

3-3 小括

英語に関して、1985 年の全国基準においては、「すべてのシラバスにおいて、コースワークは少なくとも総得点の 20% を占めなければならない。」と述べられていたが、1995 年の規則においては、「最終試験の比重は最低でも 60% を占めなければならない。コースワークの比重は、どの評価計画においても 40% を超えてはならない。」とされていることから、コースワークに対する消極的な態度がみてとれる。

科学に関しても、1985 年の全国基準では、「実際的技能、実験を行う技能について、すべての評価計画はこれらの技能に、総得点の 20% 以上を配点しなければならない。」と述べられていたが、1995 年の規則では、「最終試験の比重は最低でも 70% とする。コースワ

ーク評価の比重は 30%を超えてはならない。」という記述に変化したことから、英語と同様のことがいえる。

4. コースワーク評価の比重の変化—シラバスの分析

シラバスの分析において焦点を当てるのは、筆記試験とコースワーク評価の比重が具体的に示されている部分である。また、コースワーク評価と筆記試験がそれぞれどのような能力・技能を測定するのもシラバスに明示されている。

4-1 コースワーク評価の重視—1988 年のシラバス

◆英語

評価計画¹⁸

- ・ 「英語の文書」は、①50%のコースワークと 50%の筆記試験、もしくは②50%のコースワーク×2、によって評価される。
- ・ オーラル・コミュニケーションは英語の成績とは別に評価され、50%のコースワークと 50%の集団テストによって評価される。

シラバス¹⁹

- ・ 「英語の文書」は、①表現、②理解と反応に区分されており、①は 50%のコースワーク、②は 50%の筆記試験もしくは 50%のコースワークによって評価される。
- ・ オーラル・コミュニケーションは、①内容、②対人関係の技能、③言語のスタイルと構造、④表現の明確さに区分されている。

◆科学（生物、物理、化学）

評価計画²⁰

コースワーク評価と筆記試験の比重は、表 1 のとおりである。

表 1 科学における評価の比重

試験の方法	比重(生物) ²¹
①筆記試験	50%
②もしくは③の筆記試験	30%
④教師による評価（コースワーク評価）	20%

（出典：London and East Anglian Group, 1987, p. 64. から作成）

生物において、教師による評価は、（評価）目標における以下の能力をテストすることとされた：「知識と理解」における、適切な実際の技能や安全措置に関する知識や理解を示す能力、「技能とプロセス」における、①正確な観察を行い記録する能力、②生物に関する仮説を検証するために、簡単な実験を計画し、遂行する能力、③仮説を設定し、それを検証するために簡単な実験を計画し、遂行する能力、④生物に関する知識を、実験の考案や評価、そして個人的、社会的、経済的、技術的性質のものを含む問題の解決に適用する能力。

化学では、コースワークによって評価される能力として、①実際の作業を組織し、指示

に従う能力、②操作する技能、③観察や測量の精度、④実験の結果を明確に述べ、それから結論を引き出す能力、⑤実験を計画・考案する能力が挙げられている。

4-2 コースワーク評価の比重の軽減—1998 年のシラバス²²

◆英語

評価の明細²³

表 2 は、スピーキングとリスニングなどの領域別に示されたコースワーク評価と最終試験（筆記試験）の比重である。これによれば、以前のシラバスに比べ、全体的にコースワークの比重が軽減されていることがわかる。

表 2 英語における比重の明細

	コースワーク	最終試験	合計
スピーキングとリスニング	20%	0%	20%
リーディング	10%	30%	40%
ライティング	10%	30%	40%
合計	40%	60%	100%

（出典：London Examinations, *GCSE Syllabus 1999: English*, p. 8.）

【主な変化】

- ・ コースワーク評価の比重の軽減。特に、1988 年のシラバスでは、「英語の文書」において、「表現」だけでなく「理解と反応」もコースワーク評価で評価することが可能であるとされているが、それが今回のシラバスでは、「英語の文書」にあたるリーディングとライティングのコースワーク評価の比重が全体の 40%にとどまった点が大きな変化だといえる。

◆科学（生物、物理、化学）

評価目標の比重²⁴

コースワーク評価と筆記試験の比重については表 3 に示すとおりである。

表 3 科学における評価目標の比重

評価目標	比重
①実験や調査に関する作業	25%
②知識、理解、活用、応用	60%（約 3 分の 1 は「記憶」に当てる）
③と④コミュニケーションと評価	15%（均等に配分される）

（出典：London Examinations, *Science: Biology – 1998 Syllabus*, p. 3, London Examinations, *Science: Physics – 1998 Syllabus*, p. 3, London Examinations, *Science: Chemistry – 1998 Syllabus*, p. 3.）

①はコースワークによって評価される。②、③、④は、コースの終わりに実施される筆記試験によって評価される。

【主な変化】

- ・ 評価目標の比重において、実験や調査に関する作業に当てられる比重が増加している。
- ・ 評価目標において、新たにコミュニケーションと評価の項目が設定された。

4-3 コミュニケーション能力の取り扱いの変化—2005 年のシラバス

◆英語の仕様²⁵

【主な変化】

コースワークと最終試験の比率は変わらず、評価グリッドにおいても大きな変化はないが、①スピーキングとリスニングやライティングにおいて、「想像的に」という言葉が追加されている点、②スピーキングとリスニングにおいて、討議や他者とのコミュニケーションに重点を置いた記述になっている点、で若干の変化がみられる。また、スピーキングとリスニングにおけるコースワーク評価について、劇や討議などの活動が評価されなければならないとされている。

リーディングとライティングにおけるコースワークの内容とそれらの比重については、ユニット 1 の個人的、想像的なライティング（ライティング）に 10%、ユニット 2 の他の文化・伝統に基づくテキストに対する反応（リーディング）に 5%、ユニット 3 のシェークスピアの演劇に基づく作業（リーディング）に 5%、となっている。

◆科学（生物、物理、化学）の仕様

評価計画の要約²⁶

表 4 は評価方式とその比重である。これによれば、「実験や調査に関する技能」を評価するのはコースワークによる内部評価とされ、20%の比重が与えられている。

評価目標の比重²⁷

表 5 は、評価目標の比重を示したものであるが、「調査の技能」には 20%が配分され、それはコースワーク評価によって評価されることになっている。

表 4 科学における評価方式とその比重

	評価方式	比重
生命のプロセス、生物（生物） 物理的プロセス（物理） 物質とその特性（化学）	外部	75%
科学における概念と証拠	外部	5%
実験や調査に関する技能	内部（コースワーク）	20%

（出典：Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Biology A (1520)*, 2000, p. 2, Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Physics A (1540)*, 2000, p. 2, Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Chemistry A (1530)*, 2000, p. 2. から作成）

表 5 科学における評価目標の比重

評価目標	比重
知識と理解	45－55%（約 3 分の 1 が「記憶」に当てられる）
知識と理解の応用、分析、評価	25－35%（目標におけるすべての側面に対して等しく配分される）
調査の技能	20－25% ²⁸

（出典：Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Biology A (1520)*, 2000, p. 6, Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Physics A (1540)*, 2000, p. 6, Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Chemistry A (1530)*, 2000, p. 6. から作成）

【主な変化】

- ・ コミュニケーションと評価の項目が削除された。
- ・ 評価目標における調査の技能（以前のシラバスでは実験や調査に関する作業）当てられるコースワークの比重が軽減された。

4-4 小括

英語に関しては、1988 年のシラバスにおいて、コースワークのみでの評価が可能であったり、オーラル・コミュニケーションの成績が個別に出されていたりしたが、1999 年のシラバスにおいては、スピーキングとリスニング、リーディングとライティングにそれぞれ 20% しか配分されていない。また、2005 年のシラバス（仕様）において討議や劇によるコミュニケーション能力の発達により重点が置かれるようになったが、コースワークの比重は以前と変わっていない。

科学に関しては、コースワークの比重は多少推移しているが、大きな変化はみられない。1998 年のシラバスでは評価目標の 1 つとされた「コミュニケーション」は、ナショナル・カリキュラムにおいて記述が簡素化されたのと同様に、2005 年のシラバスでは評価目標から削除されている。

5. おわりに

本論文では、GCSE 試験におけるコースワーク評価に関して、①ナショナル・カリキュラムの分析、②試験の全国基準の分析、③シラバスの分析により、GCSE 試験導入から現在までの英語と科学における評価内容や方法の変化について明らかにした。これらの分析により明らかになったことを以下にまとめる。

まず、コースワークによって評価される能力について整理する。英語に関して、コースワークによってのみ評価されるスピーキングとリスニングにおいて、近年、討議や劇におけるコミュニケーションが重視されていることから、単に適切に聞き取りや発話を行うことだけでなく、状況や聞き手に応じたコミュニケーションが重視されていることがわかる。ライティングにおいても同様に、1999 年の改訂によって、目的に応じたライティングが重

視されていることから、生徒が状況に応じて使い分けることに重点が置かれていることがわかる。科学に関して、教科の特性から、コースワークによって評価される能力・技能は実験に関するものが多いが、一言に実験や調査に関する技能といっても、例えば 1988 年のシラバスに記載されているような、「知識と理解」における、適切な実地的技能や安全措置に関する知識や理解を示す能力、「技能とプロセス」における、①正確な観察を行い、記録する能力、②生物に関する仮説を検証するために、簡単な実験を計画し、遂行する能力、③仮説を設定し、それを検証するために簡単な実験を計画し、遂行する能力、④生物に関する知識を、実験の考案や評価、そして個人的、社会的、経済的、技術的性質のものを含む問題の解決に適用する能力、といったように、幅広い観点からの能力・技能が含まれる。

次に、コースワーク評価の比重の変化について整理する。英語と科学の両方において、コースワーク評価は GCSE 試験導入当初においては比重が大きかったことから、実質的に重視されていたといえるが、英語に関しては実施基準やシラバスにおいて、その後削減されることとなった。さらに、科学においても、シラバスにおける比重は多少の推移にとどまっているが、実施基準においては英語と同様の取り扱いをされている。

以上に述べてきたように、導入から現在に至るまでに、評価内容や方法の面で様々な変化がみられる。全体としては、コースワーク評価は 90 年代に入り削減される傾向にあり、それ以降、現在に至るまでに大きな比重の変化はみられない。これは、GCSE 試験において、伝統的な知識・理解を中心とする筆記試験が再び重視されたことを意味する。他方で、90 年代以降、「全国資格枠組み」の導入や GCSE 職業科目が導入されるなど、資格試験制度全体の改革が進められており、そのような幅広い視点から GCSE 試験のコースワーク評価の内容や方法の変化を捉えなおす必要があるだろうが、この点については今後の課題としたい。

注

¹ 本論文では、イングランドを指す。

² その後、1988 年に最初の試験が実施された。

³ Buchan, A. S. and Welford, A. G., 'Policy into Practice: The Organizational, Financial and Curricular Setting of Practical Assessment at GCSE', *School Science Review*, Vol. 75, No. 271, 1993.

⁴ Taylor, J. and Wallace, G. 'Some Dilemmas in Implementing the Criteria for Continuous Assessment in GCSE English', *British Journal of Sociology of Education*, Vol. 11, No. 1, 1990.

⁵ 鈴木秀幸「観点別評価—イギリスの教育改革に学ぶ—第 1 回」『指導と評価』42・2、1996 年（2 月号ではコースワーク評価の全体像や評価の統一に関して、3 月号から 7 月号においては各科目におけるコースワーク評価の評価目標や評価基準について述べている）。

⁶ 本研究では、「コースワーク評価の評価対象である実地的能力や問題解決能力などがナショナル・カリキュラムでどのように扱われてきたのか」を意味する。

⁷ 'Programmes of Study for Key Stages 1 to 4', Department of Education and Science and

Welsh Office, *English in the National Curriculum (No. 2)*, HMSO, 1990, pp. 12-42.

⁸ 'Programmes of Study for Key Stages 1-3 and for Models A and B of Key Stage 4', Department of Education and Science and Welsh Office, *Science in the National Curriculum*, HMSO, 1990, pp. 63-83.

⁹ 'Key Stages 3 and 4 Programme of Study', Department for Education, *English in the National Curriculum*, HMSO, 1995, pp. 17-24.

¹⁰ 'Key Stage 4 Programme of Study (Double Science)' and 'Key Stage 4 Programme of Study (Single Science)', Department for Education, *Science in the National Curriculum*, HMSO, 1995, pp. 24-48.

¹¹ 'The Programmes of Study for English', Department for Education and Employment & Qualifications and Curriculum Authority, *English: The National Curriculum for England*, 1999, pp. 11-52.

¹² 'The Programmes of Study for Science', Department for Education and Employment & Qualifications and Curriculum Authority, *Science: The National Curriculum for England*, 1999, pp. 11-71.

¹³ 'English', Department for Education and Science, *General Certificate of Secondary Education: National Criteria*, HMSO, 1985, pp. 2-4.

¹⁴ 'Science', Department for Education and Science, *General Certificate of Secondary Education: National Criteria*, HMSO, 1985, pp. 4-7.

¹⁵ 本規則は、1998年のGCSE試験において初めて適用された。

¹⁶ 'GCSE Criteria for English', School Curriculum and Assessment Authority, *Regulations for the General Certificate of Secondary Education (GCSE) and Regulations for Other Syllabuses Designed for Pupils of Compulsory School Age*, SCAA, 1995, p. 37.

¹⁷ 'GCSE Criteria for Science', School Curriculum and Assessment Authority, *Regulations for the General Certificate of Secondary Education (GCSE) and Regulations for Other Syllabuses Designed for Pupils of Compulsory School Age*, SCAA, 1995, pp. 74-75.

¹⁸ 'English', London and East Anglian Group, *General Certificate of Secondary Education: Syllabuses for Schools and Colleges only*, 1987, pp. 227-229.

¹⁹ *ibid.*, pp. 229-231.

²⁰ 'Biology (Syllabuses A and B)', London and East Anglian Group, *General Certificate of Secondary Education: Syllabuses for Schools and Colleges only*, 1987, pp. 63-64. 'Physics (Syllabuses A)', London and East Anglian Group, *General Certificate of Secondary Education: Syllabuses for Schools and Colleges only*, 1987, pp. 349-350. 'Chemistry (Syllabuses A)', London and East Anglian Group, *General Certificate of Secondary Education: Syllabuses for Schools and Colleges only*, 1987, pp. 155-156.

²¹ 物理と化学の評価計画は、①と②もしくは③の比重が多少異なるが、コースワークの比重は同様に20%であるので、省略した。

²² 英語については、1999年に出版されたシラバスを参照した。

²³ 'Assessment Specification', London Examinations, *GCSE Syllabus 1999: English*, pp. 8-11.

²⁴ London Examinations, *Science: Biology—1998 Syllabus*, p. 3. London Examinations, *Science: Physics—1998 Syllabus*, p. 3. London Examinations, *Science: Chemistry—1998 Syllabus*, p. 3.

²⁵ Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in English A (1203)*, 2002. 以前はシラバスだったが、現在は『仕様 (specification)』とよばれている。

²⁶ Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Biology A (1520)*, 2000, p. 2. Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Physics A (1540)*, 2000, p. 2. Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Chemistry A (1530)*, 2000, p. 2.

²⁷ Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Biology A (1520)*, 2000, p. 6. Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Physics A (1540)*, 2000, p. 6. Edexcel, *Specification: Edexcel GCSE in Chemistry A (1530)*, 2000, p. 6.

²⁸ 25%割り当てられる場合、20%はコースワークによって評価され、残りの5%は筆記試験によって評価される。

A Study of Coursework Assessment in the GCSE Examination in England —Changes in what to assess and how to assess from its introduction to the present—

Naohiro IIDA

The purpose of this study is to demonstrate changes in coursework assessment from the introduction of the GCSE examination to the present in terms of what to assess and how to assess

In England, the GCSE (General Certificate of Secondary Education) was introduced in 1986 as a 16-plus examination. The GCSE examination includes a unique method of assessment, called coursework assessment. Coursework assessment is the assessment of study through experience, experiment, problem-solving study and research projects; and together with the score of a paper test at the end of the course the final grade will be determined.

The policy background of the introduction of the GCSE and its coursework assessment includes the perspective of developing individuals who can survive in international free market. And in this context, practical skills and problem-solving skills have been given greater importance. In other words, this means a shift in government policy from the traditional leaning toward knowledge and understanding in academic subjects measured by paper tests to a respect in view of human capital for abilities and skills which could not be assessed sufficiently by paper tests. Given this background, examining the changes in coursework assessment suggests the way in which the direction of government policy above has been changed from the introduction to the present.

This study, in order to demonstrate the above points, analyzes national curriculum, national criteria of the GCSE examination and syllabuses issued by an awarding body (Edexcel). First of all, the changes in curriculum contents concerned with practical skill and problem-solving skill will be examined through analysis of the national curriculum. These skills should be assessed by coursework assessment. Second, national criteria show what the awarding bodies should obey and standards for coursework assessment weight in each subject. Analyzing national criteria leads to clarifying the changes in national standards for coursework assessment. Third, analysis of syllabuses demonstrates the change in assessment objectives and assessment standards. In the above ways, this study demonstrates national policy intention as a whole, not merely clarifying detailed syllabus changes.

This study particularly examines the changes in English and Science (including Biology, Physics and Chemistry). The reason for examining these two subjects is that they tend to place more importance on communication skills and practical skills which should be assessed by coursework assessment. These subjects can be seen to show the changes in coursework assessment more markedly than the other subjects.